

特定非営利活動法人 福祉サポートセンター

さわやか愛知

ふれあいニュース 年始号

～メールマガジン配信中♪～ 平成22年1月発行



発行所 所在地
〒474-0074
大府市共栄町二丁目 420-1
TEL : 0562-47-2893
FAX : 0562-45-4787
ホームページ見て下さいね
↓
http :
sawayaka-aichi.com



【家族の理解と協力で自宅を活動の場に開放】

～困った人も、助けてくれる人も、この指とまれ～

名古屋市の緑区に隣接する自宅を改装した「NPO法人福祉サポートセンター さわやか愛知」の事務所には24時間スタッフの往来が絶えることがない。

「苦になることはありませんか？」と聞くと「子どものころからそういう家庭で育ってきたから少しも」と理事長の川上里美さんは笑う。

日本が貧しかった戦後間もない頃、警察官だった川上さんの父親はお腹をすかせた人々を誰彼の区別なく家に招いて食事を共にした。母親はいつも優しい笑顔を浮かべながら台所に立っていた。少女時代、川上さんが目を覚ますと同じ蚊帳の中で見知らぬ子供たちが寝ていることもしばしばだった。そんな両親の元で育った川上さんが「さわやか愛知」を立ち上げたのは、15年前のこと。

当時の川上さんは、実家の両親、嫁ぎ先の両親ともに入退院を繰り返していたことから、仕事を辞め看病に追われていた。幸い両親の病気は完治し看病生活から解放されたとき痛感したのは、助け合いの大切さだった。

「洗濯物を取りこんだり、お布団を干したり、そんなちょっとしたことを頼みたくても、なかなかお願いできる人っていません。ならば地域全体が家族のようにお互い助け合えるシステムを作ればいい」そんな思いから生まれたのが市民が自由な時間を活用して互いに助け合うことの出来る登録制の福祉サービスを実現する「さわやか愛知」だった。その活動拠点として自宅を開放しようと考えた川上さんは家族に相談したところ、まず2人の子供達が反対した。「お母さんは長い間仕事をしてきたんだから、もう好きなことをしながらのんびり暮らしたら」と。母を思っただけの言葉だった。そんな孫達の優しさを受け止めながらも、義母が言った。「それが里美さんの好きな事なんだから。協力しようよ。」「いいよ、いいよ」と義父も賛成。「家を提供するという事は、いつ、誰が来てもみんなが笑顔で迎え入れるということだ。それができるか」と決断を促す夫の言葉に、今度は家族みんなが、笑顔でうなずいた。

戦後、困っている人たちを家に招き入れた父の志を受け継いだ川上さんと家族たちにより、こうして「助け合いの家」が生まれた。

「暮らしのお手伝いはなんでもします。困った方はどうぞお電話下さい。助けてくださる方は1時間でもいいからお時間を下さい。」そんな呼びかけに賛同し、たくさんのボランティアスタッフが集まってきた。発足当初はまったくの無償サービスだったが、それではなかなか頼みづらいという利用者の声もあり、有償ボランティア制度を導入「それでも8年間赤字続き」だったとか。時には難しい依頼の相談がくることもある。そんなとき川上さんはいつもスタッフに言い聞かせる「ちょっとまって。断らないで。どうしたらできるのかを考えましょう」と。そんな柔軟な姿勢で運営を続けるうちに提供するサービスは広がるばかり。託児、宅老所や移送サービス、配食、在宅サービス、といった事業に加え2000年からはホームヘルパー養成研修、訪問介護や通所介護、居宅介護支援などの介護保険指定事業、障がい福祉サービスにも参入。

「介護保険ではさまざまな制約があり、できないことがたくさんあります。その部分をこれまでの助け合いのサービスで補えれば」と川上さん。15年前、川上さんがたった一人で始めた「さわやか愛知」は、今では登録会員400名近く、利用会員700名近くを抱える大きな団体へと成長した。その原点である「助け合いの心」も、会の成長とともに地域に大きく広がっている。



「H22年1月 情報誌 Stepより 川上代表のインタビュー記事から抜粋しました」

さわやかなHPにもアップ予定です。お楽しみに♪